

新しい医療情報統合システムを用いた院内における完全ペーパーレス化への試み

¹北海道循環器病院、²北海道循環器病院

二木 克明¹、菅原 宏昌¹、鈴木 正俊¹、北 裕一¹、大堀 克己²、横山 秀雄²、伊達 修²

【はじめに】一般的な病院では医療情報のデータの75%が紙で管理されている。また、紙運用を軽減する為に科別の部門システムを導入し、管理や費用の負担が生じている病院も少なくない。当院では2012年6月のPACS更新にあたり、今まで紙運用で行っていたすべての医療情報を電子化し統合管理をすることを目的に新たな医療情報統合システムを構築し導入したので、その特徴と運用状況について報告する。【医療情報統合システム】オラクルデータベースを基本ソフトとしたINFINITT社製オールインワンシステム（PACS・RIS・CIS・Reporting統合システム）。DICOM規格以外のデータ（HL7、MFER、JPEG、VIDEO信号）をDICOMデータに変換し一元管理する。画像以外の情報もReportingシステムとHIS（病院情報システム）との連携によって効率的な電子化が可能となる。【特徴】1. 統合システムにより、CT、AGなどの放射線画像と心電図、超音波検査、所見レポートなどの多種類の画像が同時に参照可能。2. ペーパー記録紙の作成、記入及び管理するための業務が無くなり、業務効率が向上。3. 各科固有のデータベース（ACCESS、FileMaker）などの異種システム間の情報を統合でき、情報の信頼性を大きく高める。【総括】新しい医療情報統合システムの導入は医療画像を統合管理できるだけでなく、時間と費用などのかかる記録紙作成・管理・運搬作業を無くすことが可能となり、業務効率が大幅に改善できるシステムと考える。